

平成 28(2016)年 7 月 30 日(土) 午後 開催
2016 年度 美術科教育学会 リサーチフォーラム in Osaka,
Japan へのお誘い (第一次案内)

テーマ：ドイツの初等教育における「アート・プロジェクト教育実践」から探る美術教育の新たなくかたち - マリオ・ウアラス教授(ドイツ・ハイデルベルグ教育大学)のプロジェクト型美術教育をふまえて -

美術科教育学会(代表理事 聖心女子大学教授 水島尚喜)は、美術教育に関する実践検証や研究を進めている全国規模の学会で、日本学術会議にも登録されています(<http://www.artedu.jp/>)。この度 <2016 年度 美術科教育学会 リサーチフォーラム in Osaka, Japan>を開催致します。造形表現・図画工作・美術教育に関心のある方は、どなたでも自由に参加ください(学会員以外の方も大歓迎)。入場無料です。

テーマ及び進行について

現在、次期教育課程が模索されています。今後の教育課程の中で美術教育が一定の存在感を持つためには、これまでの地道な実践・研究の積み上げを活かしながらも、子どもたちが生きる将来をふまえた <新たな可能性を探る道>も必要となると考えています。

今回は、「第32回 InSEA国際美術教育学会 2008 in 大阪」で来日されたマリオ・ウアラス教授(Mario Urlass 独, 1966-) が企画するドイツの初等教育における「アート・プロジェクト教育実践」に学び、そこから考えられる美術教育の新たな姿を模索したいと思います。

<http://www.art.hyogo-u.ac.jp/fukumo/InSEAINJapan/photoinsea/PhotoGallery.html>

<第1部>では、ウアラス氏の講演を行います。ウアラス氏は、ドイツ・ハイデルベルク教育大学にて芸術及び芸術教授学を担当されています。氏は、現在のザクセン自由州のツヴィッカウ市でお生まれになり、最終的には、ライプティヒ大学で学ばれました。

中心的な研究テーマは、「基礎学校における芸術的人間形成」「自然と関わる芸術教育学」であり、「現代芸術、絵画・オブジェ・インスタレーションの領域での芸術的活動」もされています。



2008 8.7 InSEA in Osaka 招待セミナー
「ロフト・プロジェクト」の発表の様子

2007年7月にドイツで開催されたInSEAヨーロッパ地区会議に参加された福本謹一氏(当時InSEA評議員)がスカウトし、2008年8月に大阪で開催した第32回InSEA世界会議に招待し、セミナーを行いました。

また、このときにコーディネーターとなった宇田は、交流を続け、2010年3月にハイデルベルグを訪問し、現地調査を行いました。これをふまえて、2011年3月富山大学にて開催の第33回美術科教育学会において共同発表を行う予定でしたが、直前の東北震災により中止となりました。

今回のリサーチフォーラムは兵庫教育大学の国際交流協定による招待によって実現しました。久々の来日を受けて、これまでの成果をふまえて、ウアラス氏が企画する「アート・プロジェクト教育実践」を掘り下げ、美術教育の新たな姿を模索したいと考えています。

指定質問者の岡田 陽子氏(大阪千代田短期大学)には、小中学校での豊富な指導経験を活かした質問を、辻 大地氏(子どもアートスタジオ <http://artfunkids.web.fc2.com>)には、課外活動としてのアート活動に携わる立場からの質問を、それぞれしていただく予定です。

<第II部>では、「4人のシンポジスト其々の立場からの問題意識を語り、ウアラス氏との対話を行う」形のシンポジウムを行います。

ウアラス氏を見いだしたといえる福本 謹一氏(兵庫教育大学、美術科教育学)には、「プロジェクト学習・課題解決学習における美術の分野の可能性」を軸に対話いただきます。湯川 雅紀氏(関西福祉科学大学、絵画制作・美術教育)は、19年間のドイツ・デュッセルドルフ滞在経験をふまえ、そこでの「生活経験、芸術体験」の問題意識からの対話を期待しています。鈴木 幹雄氏(神戸大学、芸術教育学)には、長年の研究である「ドイツ改革派芸術学校とそこにおける芸術教育学研究」の問題意識をふまえ、さぐっていただきます。佐藤 賢司氏(大阪教育大学、美術科教育・工芸教育・工芸)には、「制作と教育実践の融合」の問題意識から語っていただきます。

ドイツ語通訳を介し、適宜、フロアーからの質問・ご意見を交えながら進めていきます。多くの皆様の参加をお待ちしています。



ドイツ国内の関連都市

コーディネーター 奈良教育大学 宇田 秀士

プログラム

1, 日時：平成 28(2016)年 7 月 30 日(土) 午後 13:00–18:00 (受付 12:30–13:00)

2, 会場：大阪教育大学 天王寺キャンパス 西館ホール
〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀町4-88
JR天王寺駅, 地下鉄天王寺駅, 近鉄大阪阿部野橋駅下車。徒歩約10分
JR 寺田町駅下車, 徒歩 5 分 http://osaka-kyoiku.ac.jp/campus_map.html#tennoji
*4 頁の交通案内・マップをご覧ください。正門左手の守衛室で、「美術科教育学会行事に来た」とお声をおかけ下さい。

3, 主催：美術科教育学会, 兵庫教育大学

4, 内容：

<12:30–13:00> 受付

<13:00– > はじめの挨拶

第 I 部 講演

<13:05–13:25>

(1)はじめに 企画の趣旨, 登壇者紹介, 進行, これまでの経緯

宇田 秀士(奈良教育大学教授, 美術科教育学)

「ウアラス氏が企画・実践した<ロフト・プロジェクト>の事例と日本の<造形遊び>との比較–2008 InSEA in Osakaでの討議をふまえて」

*以下のURLをクリックすると, ハイデルベルグ教育大学のウアラス氏の実践紹介のページが現れます。その中で「Dachbodenprojekt (als pdf)」を選ぶと<ロフト・プロジェクト>のスライドが出て来ます。以下の他のウアラス氏の実践もありますのでご覧ください。うまくリンクしない場合は, URLをコピーし, 検索画面でペースト下さい。

<https://www.ph-heidelberg.de/kunst/personen/hauptamtlich-lehrende/biographie-prof-mario-urlass/urlass-downloads.html>

<13:25–14:35>

(2)マリオ・ウアラス氏(ドイツ・ハイデルベルグ教育大学 教授, 芸術教授学・芸術) 講演

「ドイツの初等教育における「アート・プロジェクト教育実践」の可能性について–<ひまわり>, <55cent>, <自画像>などのアート・プロジェクトから(仮)」

<14:35–15:05>

質問と対話

指定質問者 岡田 陽子氏(大阪千代田短期大学 講師・元大阪・河南町立白木小学校長)
辻 大地氏(子どもアートスタジオ 副代表)

フロアーから

<休憩>

第 II 部 シンポジウム–其々の立場からの現状認識とウアラス氏との対話

<15:15–15:40>

福本 謹一氏(兵庫教育大学 副学長, 美術科教育学)

「プロジェクト学習・課題解決学習における美術の分野の可能性から(仮)」

<15:45-16:10>

湯川 雅紀氏(関西福祉科学大学 准教授, 絵画制作・美術教育)
「ドイツ・デュッセルドルフでの生活経験, 芸術体験から(仮)」

<16:15-16:40>

鈴木 幹雄氏(神戸大 学教授, 芸術教育学)
「ドイツ改革派芸術学校とそこにおける芸術教育学研究の立場から(仮)」

<16:45-17:10>

佐藤 賢司氏(大阪教育大学 教授, 美術科教育・工芸教育・工芸)
「制作と実践の融合の立場から(仮)」

<17:15-17:50>

フロアーから質問・対話
まとめ

終わりの挨拶

申込み方法

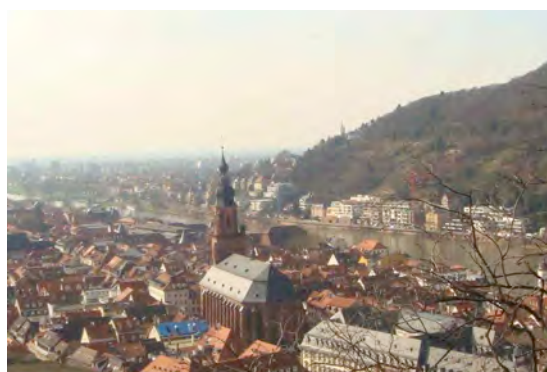
◆参加費：無料 *美術科教育学会 会員以外でも参加できます。お誘い下さい。

◆申込み方法：

- 1, 右記アドレスまでメールにてお申し込みください。 udah@nara-edu.ac.jp 宇田 秀士
- 2, 件名に「リサーチフォーラムOsaka」, 本文に参加される方の「お名前」「ご所属」「郵便番号、住所」を明記ください。事後にテープ起こしをして『フォーラム記録集』を作成し、送付予定です。
- 3, 資料準備の都合上、7月15日(金)までにお申し込み下さい。

◆このリサーチフォーラムは、以下の支援を得て行っています。

- ・美術科教育学会 事業部 活動費
- ・兵庫教育大学 国際交流協定基金
- ・2014-2016 科学研究費補助金 基盤研究 (c) No.26381201 <美術教育における「あそび」概念の整理・構築>に基づく題材並びに授業モデル開発 (代表 宇田 秀士)



ドイツ ハイデルベルグの街並

交通案内・マップ

最寄り駅までの交通案内 →

大阪教育大学天王寺キャンパス

JR 天王寺駅，地下鉄天王寺駅，近鉄大阪阿部野橋駅下車。徒歩約10分。

JR 寺田町駅 天王寺駅側出口を出て，徒歩10分 正門よりお入り下さい。

正門左手の守衛室で、「美術科教育学会行事に来た」とお声をおかけ下さい。



駅からの地図↓



◆最新案内：以下の学会Webサイトに今後，最新の案内を掲示していきますので，随時ご覧下さい。

<http://www.artedu.jp/> → 地区会・リサーチフォーラム

<http://www.artedu.jp/%E5%9C%B0%E5%8C%BA%E4%BC%9A%E3%80%80%E3%83%AA%E3%82%B5%E3%83%BC%E3%83%81%E3%83%BB%E3%83%95%E3%82%A9%E3%83%BC%E3%83%A9%E3%83%A0-1/>

講演者・指定質問者・シンポジスト 紹介

講演者

マリオ・ウアラス氏 ドイツ・ハイデルベルグ教育大学 教授

Mario Urlass, Professor of Art and Art Education, University College of Education, Heidelberg, Germany

1966 born Zwickau

1982 – 1986 Institute for Teacher Training, Auerbach. Majoring in Elementary Education

1989 – 1992 University of Leipzig. Art Education

1993 Grant from the Saxony Ministry for the Sciences and the Arts for the "Progetto Civitella d'Agliano/Italien"

1988 – 1994 Research Assistant, Art Department, Institute for Teacher Training, Auerbach

1994 – 1998 University of Chemnitz-Zwickau

1998 – 2003 University of Erlangen-Nürnberg

2003 – University College of Education, Heidelberg . Professor of Art and Art Education

Fields of Specific Interest in Teaching and Research

- Teaching Art at elementary level
- Interdisciplinary Art projects as part of Teacher Training
- The Teaching of Art with focus on Nature/ Contemporary art in school and college (Numerous papers, lectures and in-service courses on the above)
- Personal work and exhibitions in the fields of painting, photography and three-dimensional work
- Joint Co-ordinator of the International InSEA "Horizons" Congress in Heidelberg/ Karlsruhe, July 2007 (along with Prof Dr Buschkühle/ Gießen and Prof Dr Kettell/Karlsruhe)
- Erasmus Partnership with Karls University, Prague and Graz University College of Education

Book

- Horizonte. Internationale Kunstpaedagogik: Beitrage zum Internationalen InSEA-Kongress "horizons/horizonte - insea2007germany", Athena-Verlag, 2009.
- MitEinAnder: Zur Praxis einer partizipatorischen Kunstpaedagogik in der Grundschule , Kopaed Verlag, 2013.
- Convention: Ergebnisse und Anregungen # Tradition # Aktion # Vision, Kopaed Verlag, 2013.



自宅書斎でのウアラス氏

指定質問者

岡田 陽子(OKADA, Yoko) 大阪千代田短期大学 講師, 1955年5月大阪生まれ

<専門>美術科教育学 (小・中学校の図画工作・美術科の授業研究, 幼児造形, 地域とつながるワークショップ)
<職歴等>大阪府富田林市立小・中学校教諭, 羽曳野市立小・中学校教諭, 南河内郡河南町立小学校校長を経て2016年より現職。「第32回InSEA 国際美術教育学会世界大会2008in大阪」組織委員会事業局局長, 平成25-27年大阪府図画工作・美術研究会 分科会助言者, 平成27年大阪教育大学附属平野小学校研究会図工科指導助言者, 美術科教育学会員

<主要著書/論文>「地域社会が主体となった蒼田アートプロジェクト」栗山誠ほか編『アートによるコミュニティー活動の実践』明治図書, 2006. 「教科を越えた鑑賞活動の試み「東大寺金剛力士像へ」〜「フェルメール展か

ら、『新版造形教育実践全集-美術鑑賞の新しい試み』日本教育図書センター, 2002. 「小・中学校の経験から, 小中連携の仮説-造形遊びの発想でつなぐ, 造形活動の面白さ」第30回美術科教育学会口頭発表. 「図工科にとって, 「造形遊び」とは」第12回美術科教育学会西地区会発表. 富田林市すばるホール委託事業「子どものためのわくわくミュージアム」実施. 2000-2006.

辻 大地(TSUJI, Daichi) こどもアートスタジオ 副代表, 1973 年大阪府生まれ

<専門>幼児造形, 画塾運営, 美術対話, 現代美術

<職歴等>株式会社モンベル(1996-2001)を経て, 造形教室「こどもアートスタジオ」を運営(2001-).

幼児造形教育連盟主催「幼児造形 Koyasan 集会」運営委員(2013-), 美術科教育学会会員(乳・幼児造形研究部会所属 2014-)

<主要著書/論文/制作等>『おはなしをたのしんで おえかきがとくいになるほん』宝島社, 2006. 『たのしい親子のきりがみ』泉書房, 2009. 『箸袋でたのしい折り紙』PHP出版, 2010. 『飾る!楽しむ!12ヶ月の切り紙』PHP出版, 2011. 『園で人気の切り紙』PHP出版, 2014. (以上, 「こどもスタジオ」での共著), 『関西 USTREAM AWARD アート部門』大賞, 2012.

シンポジスト

福本 謹一(FUKUMOTO, Kinichi) 兵庫教育大学 理事・副学長 1952 年 12 月生まれ

<専門>美術科教育学(図画工作科・美術科題材・教材開発)

<職歴等>兵庫教育大学附属中学校美術教官, 兵庫教育大学助教授, 教授, 国立大学法人兵庫教育大学大学院教授を経て現職. 「第 32 回 InSEA 国際美術教育学会世界大会 2008 in 大阪」実行委員長, 美術科教育学会理事, 日本美術教育連合理事, その他大学美術教育学会会員. InSEA 国際美術教育学会 El-Basiouney Award 受賞, 2014, USSEA/NAEA 米国美術教育協会ジークフェルド国際賞受賞, 2016

<主要著書/論文>『楽しい図画工作授業のつくり方』日本文教出版, 2012. 「図画工作科・美術科における『伝統と文化』の学習」安部崇慶・中村哲編『「伝統と文化」に関する教育課程の編成と授業実践』風間書房, 2012. 『美術科教育の基礎知識』建帛社, 2011. 『新中学校美術科題材案&授業展開の工夫』明治図書, 2010. 『図画工作のエッセンス』三晃書房, 2002.



2008 InSEA in Osaka 閉会式

湯川 雅紀(YUKAWA, Masaki) 関西福祉科学大学 准教授 1966年和歌山生まれ

<専門>絵画、美術・図工教育

<職歴等>ドイツ国立デュッセルドルフ芸術大学芸術学科修了(ヤン・ディベッツのもとでマイスターシューラー(ドイツの芸術大学における芸術家としての認定資格)取得, 1996), 平成13年度ポーラ美術振興財団在外研修生(ドイツ, 2001-2002), 2010年に帰国.

<主要著書/論文/制作>「ポップアートとシュルレアリスムをテーマとした絵画教育の題材開発-20世紀絵画の方法を理解するための多面的学習」『造形芸術研究(和歌山大学大学院教育学研究科美術教育専修紀要)』17, 2011. 「ゲルハルト・リヒターの抽象絵画が拓く絵画教育-学校美術教育におけるリヒター絵画の題材化とその実践-」『美術科教育学会誌』35, 2014. 「第5回VOCA展」(VOCA賞), 上野の森美術館, 1998. 「Dialog」,



ドイツ デュッセルドルフ芸術大学

ドイツ・ケルン日本文化会館, 2005. 「日本の絵画の50年」和歌山県立近代美術館, 2013. 「11Jap. Künstler」,
ドイツ・ノルトライン・ヴェストファーレン州議会, 2014.

鈴木 幹雄(SUZUKI, Mikio) 神戸大学 教授

<専門>美術科教育学(材料・作業・発想法を手掛かりとした授業研究), 芸術教育学理論(ドイツにおける改革芸術学校とその理論の歴史)

<職歴等>広島大学教育学部助手(教育学), 神戸大学教育学部美術科講師・助教授を経て現職。大学美術教育学会国際交流委員会委員長代理・委員長

<主要著書/論文>「J・イッテンとドイツにおける戦後芸術大学の芸術教育学への貢献について」, 岡本康明編著『ヨハネス・イッテン 造形芸術への道』宇都宮美術館, 2005. 『パウハウスと戦後ドイツ芸術大学改革』風間書房, 2009(長谷川哲哉氏と共編著). 『子どもに語りかける表現教育』あいり出版, 2012(長谷川哲哉氏と共編著). 『表現教育にはそんなこともできるのか』あいり出版, 2015(佐藤昌彦氏と共編著).

佐藤 賢司(SATO, Kenji) 大阪教育大学 美術教育講座 教授, 1966年2月岩手県生まれ

<専門>美術科教育・工芸教育・工芸

<職歴等>岩手大学教務補佐員, 新潟県立高等学校講師, 上越教育大学助手, 大阪教育大学講師・助教授・准教授を経て現職。現在日本教育美術連盟理事, 美育文化協会評議員, 美術科教育学会理事, 日本テキスタイルカウンセラー理事, 大学美術教育学会総務部長など。

<主要著書/論文/制作>『表現教育にはこんなこともできるのか』あいり出版, 2015. 『題材開発の研究』武蔵野美術大学出版局, 2014 『図工美術の実技ベーシックス』美術出版SS, 2013. 『美術科教育の基礎知識』建帛社, 2010. 『美術教育概論改訂版』三晃書房, 2009. 『What is Fiber』, Lithuania, 2016. 『International Fiber Work's /Nexus』福岡, 2015. 『THE NATURE SPIRIT ; CONTEMPORARY JAPANESE TEXTILE ART』, SPAIN, 2012

コーディネーター

宇田 秀士(UDA, Hideshi) 奈良教育大学 教授, 1963年7月長野県生まれ

<専門>美術科教育学(題材・教材開発を中心とした授業研究, 近代日本美術教育実践史研究)

<職歴等>大阪府泉南郡熊取町立中学校教諭, 大阪教育大学附属天王寺中学校・同高等学校天王寺校舎教諭, 奈良教育大学助教授・准教授を経て現職。「第32回 InSEA 国際美術教育学会世界大会 2008 in 大阪」組織委員会研究局 副局長, 日本教育美術連盟評議員, 同連盟主催造形表現・図画工作・美術教育研究全国大会分科会助言者, 美術科教育学会会員(2013.4-2016.3 副代表理事(総務担当/本部事務局局長))

<主要著書/論文>『衝撃的美術教育のすすめ』三晃書房, 1997. 『美術教育の課題と展望』建帛社, 2000. 「美術教育実践における教師の<意識・規範・文化>」『美術科教育学会誌』22, 2001. 『美術教育概論』三晃書房, 2009. 『日本学術振興会 科学研究費補助金基盤研究(C) 研究成果報告書』ABS 出版, 2009. 『美術科教育の基礎知識 四訂版』建帛社, 2010.



2008 InSEA in Osaka 発表風景